

## 拠点のまちづくり



## グランドデザイン策定の経緯

静岡市5大構想「世界に存在感を示す3つの都心づくり」のひとつである「教育文化の拠点づくり」は、質の高い教育を受けることのできる機会を創出するとともに、副都心としての拠点整備を進めてきた東静岡地区と、教育機関等の立地を活かし文教エリアづくりを進めてきた草薙地区を、教育文化の薫りが漂い、多くの若者が集まり、交流が生まれる拠点として、新たな賑わい、地域活性化を実現することを目指しています。

東静岡地区には駅北口の市有地や、新県立中央図書館の整備に向けて検討が進められている駅南口の県有地など、今後の更なる機能の充実が期待される一方、草薙地区では、地域の賑わいづくりを地元自治会や商店会が主体となって進めていこうとする地域団体「一般社団法人草薙カルテッド（都市再生推進法人：平成30年6月指定）」がまちづくりを進めています。

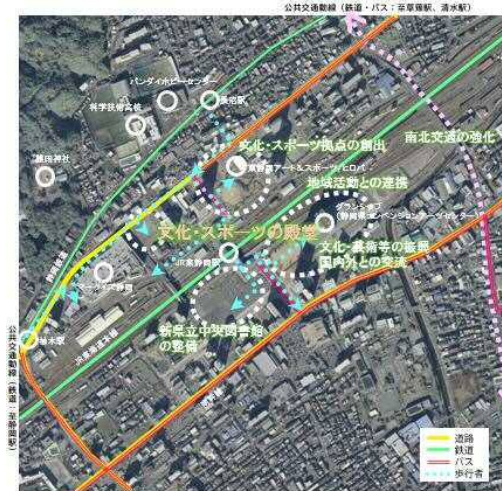
また、大谷・小鹿地区では、土地区画整理事業が推進されるとともに、令和元年の日本平久能山スマートインターチェンジ開設により、日本平周辺エリアとしての連携が期待されています。

このようなことから、本市では、これらの地区で「まなびの拠点」として相応しいまちづくりを進め、市域全体の持続的な発展をけん引していきたいとの考えから、およそ20年先のまちの将来像を示す『駿河まなびのまちづくりグランドデザイン』を策定しました。



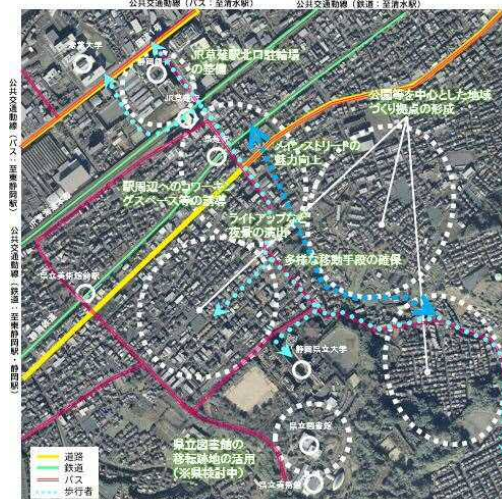
### 東静岡地区

- 文化・スポーツの殿堂【方針3・5】**  
⇒「文化・スポーツの殿堂」として相応しい拠点の整備・運営の検討
- 新県立中央図書館の整備【方針1・4】**  
⇒県内図書館の中核として、未来につながる新しい図書館の整備
- 文化・芸術の振興【方針4】**  
⇒SPACなどの、地域に根差した文化・芸術活動の展開
- 地域活動との連携【方針3・4】**  
⇒地域活動と連携したイベント開催やまちづくりの推進
- 南北交通の強化【方針5】**  
⇒新東名新静岡ICから東名日本平久能山スマートICをつなぐ環境整備



### 草薙地区

- 多様な移動手段の確保【方針6】**  
⇒小回りの利く「コミュニティバス」「デマンド型乗合タクシー」等の運行
- ライトアップなど夜景の演出【方針4・6】**  
⇒住宅地の安全性・安心感、地域の魅力を高める照明の充実
- 公園等を中心とした地域づくりの拠点形成【方針7】**  
⇒地域住民が普段から利用する公園・緑地の維持管理・有効活用の促進
- JR草薙駅北口駐輪場の整備【方針6・7】**  
⇒駐輪場の機能及び地域に開かれた公共空間の整備
- 多様な働き方や学び方ができる場の創出【方針1・6】**  
⇒サテライトオフィスやコワーキングスペース等の場の創出



※方針番号はまちづくりの方針を示しています。

## 地区の動向

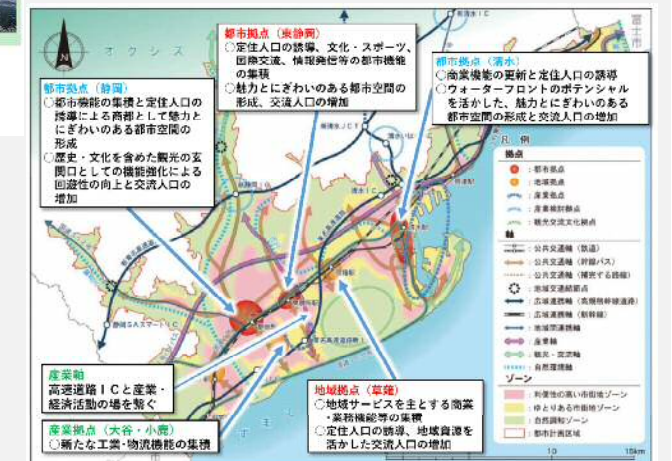


### ＜上位関連計画による位置づけ＞

- 市のまちづくりの拠点として、東静岡が都市拠点、草薙が地域拠点、大谷・小鹿が産業拠点に位置づけられています。

### ＜施設の集積状況＞

- 東静岡地区、草薙地区周辺には、芸術・文化・スポーツ施設の集積が見られます。
- また、大谷・小鹿地区に日本平久能山スマートICが開通し、IC周辺で基盤整備が進められています。



静岡市都市計画マスタープラン《集約型都市構造図》

# 駿河まなびのまちづくりグランドデザイン 概要版

## まちづくりの理念と目指す姿

<まちづくりの理念>

### まなびに親しみ、文化を創り、心豊かに暮らす

<エリアの目指す姿>

#### 市域全体の「まなび」をけん引するまち（まなび続けることができる環境）

- 教育機関等の集積を活かし、生涯を通じて、心の豊かさや生きがいのためにまなび続けることができる。
- 誰もがまなびや経験、感性などに基づくクリエイティブな思考を発揮し、自己実現や自身の成長を図るために、主体的、能動的に取り組むことができる。
- それぞれのまなびを大切に、新しいことにチャレンジする人を応援できる。
- 教育機関や企業などが相互に連携し、オープンイノベーションによって付加価値のある技術やサービス等が創出される。

#### 魅力ある文化的な都市機能の充実したまち（魅力ある文化の創造）

- 人々が誇りに思い、楽しむことのできる文化が、創造され、生まれ、継承される。
- デジタル、グリーンなどの進展に対応し、国際性豊かな、未来を見つめた都市空間を形成する。
- 芸術、スポーツ、教育、国際交流、情報発信等の満足感の高い機能が集積され、多様な体験ができる。
- 魅力ある文化的な都市機能の集積から生まれる効果が周辺に波及することによって、経済活力の高いまちが形成される。

#### 多様性がある快適な暮らしを实践できるまち（多様性がある快適な暮らし）

- 地域と密着した活動などを通じて、実践的なまちづくりのスキルが身につく、自らが地域を育てていくことができる。
- 静岡都心・清水都心との近接性や身近な自然、歴史などを活かした、多様な生活や仕事のスタイルが実践できる。
- 防災・防犯対策などが充実した安全安心な居住環境が形成される。
- 多世代・多文化の交流など、多様な価値観を持った人々が共存した地域社会が形成される。

## 東静岡・草薙地区の歴史

江戸時代に東海道が整備され、江尻宿と府中宿を結ぶ交通の東西軸の間に位置しています。

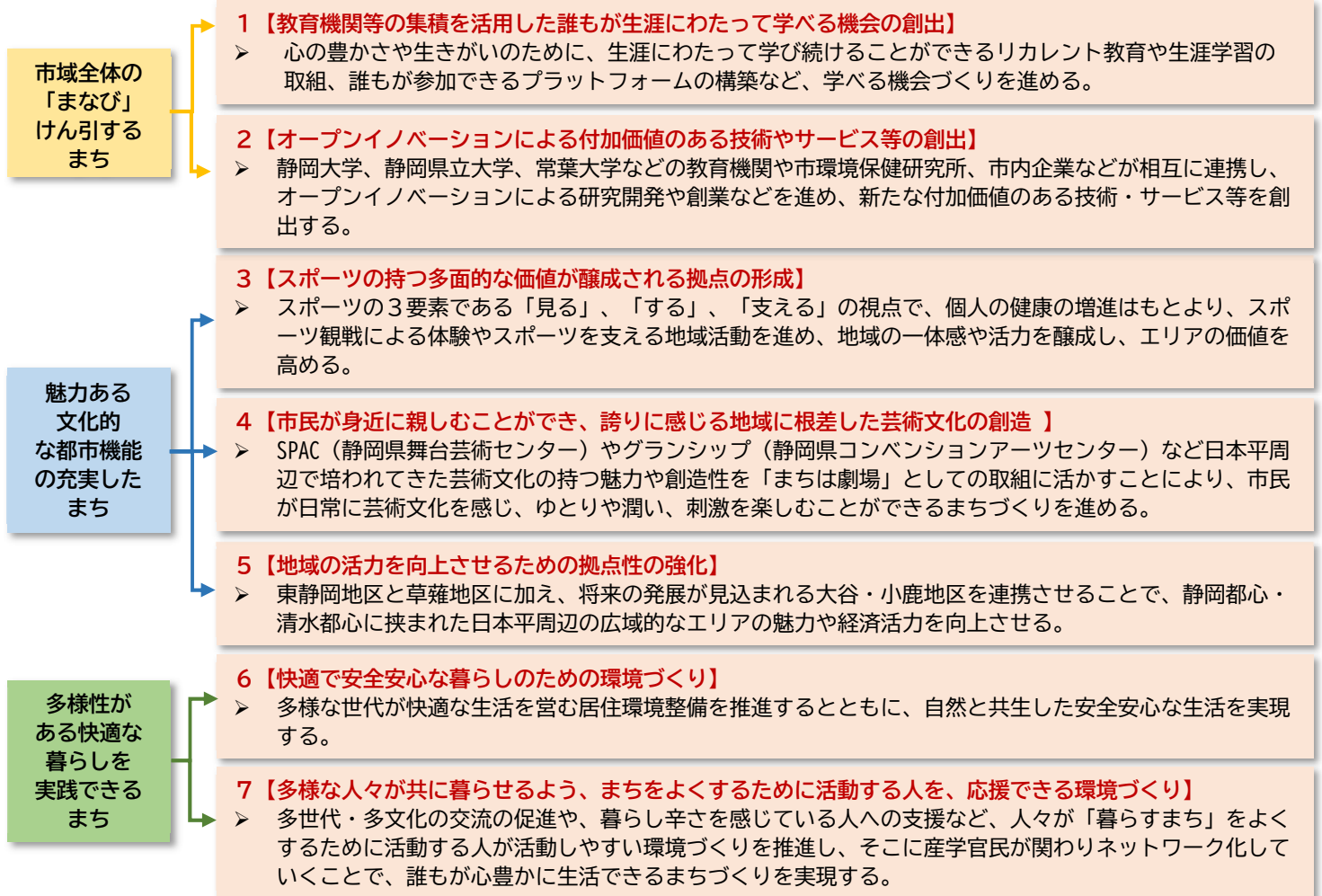


	東静岡		草薙	
大正 明治	M17 M41	静岡県護国神社が静岡市北番町より移転 静岡鉄道長沼駅開業	M41 T15	静岡鉄道草薙駅の開業 東海道本線草薙駅の開設
昭和	S37	静岡操車場開設	S2	日本平が「日本百景」に選定
	S42	操車場を駅に格上げし東静岡駅として開業	S38	草薙駅(旧国鉄)南側で静岡土地区画整理事業
	S62	静岡県立大学が開学(小鹿キャンパス)	S40	静岡銀行本部が草薙に移転
平成	H5	東静岡駅周辺土地区画整理事業「事業計画」決定	S45	県立中央図書館が移転
	H10	JR東静岡駅・南北自由通路・南北駅前広場完成	S48	草薙駅(旧国鉄)が完成
	H10	静岡県コンベンションアーツセンター開館	S61	県立美術館開館
	H17	バンダイホビーセンター移転	S62	静岡県立大学が開学(草薙キャンパス)
	H25	東静岡南北線跨線橋(東静岡大橋)完成	H27	草薙駅南口再開発ビル、静岡銀行本部棟オープン
令和	H29	MARK IS 静岡(マークイズしずおか)開業	H28	JR草薙駅橋上駅舎及び南北自由通路開設
	R元	東静岡アート&スポーツ/ヒロバ開設	H30	常葉大学の一部学部を静岡草薙キャンパスに移転 草薙駅北口駅前広場が完成
	R元	日本平久能山スマートIC 開通	R元	草薙駅南口駅前広場が完成

## まちづくりの方針

<エリアの目指す姿>

<まちづくりの方針>



【方針に基づく取組案のイメージ】

